



“早期発見によって治療率に大きな違いが … ”

子どものがんは治る病気です

しかし、診断の遅れは治療率の低下につながります。先進国では10人のうち8人の子どもたちが小児がんを克服できる中、途上国では、主に医療機関での受診の遅れから、10人のうちわずか2~3人しか病気を克服できていません。このことは、世界中で毎年90,000人以上の子どもたちが尊い命を落としていることを意味します。

この現状を広く伝えることで、小児がんの子どもたちを支えてください

次にあげる小児がんを疑う症状が続いた場合は、早期に医療機関で診察を受けてください：

- 白く光る眼、新たな斜視、目が見えなくなる症状、眼球突出
- 腹部や骨盤、頭部や首、四肢、精巣、分泌腺などにあるしこり
- 2週間以上続く原因不明の発熱
- 体重の減少、すぐれない皮膚の色、疲れやすさ、あざができやすい・出血傾向
- 骨、関節、背中への痛み、骨折傾向
- 神経学的兆候：歩行、バランス感覚や話し方の変化や悪化、発育・成長の遅れ、吐き気が伴うこともそうでないこともある2週間以上の頭痛、頭部の肥大



INTERNATIONAL CONFEDERATION OF
CHILDHOOD CANCER PARENT ORGANIZATIONS

国際小児がん親の会連盟



国際小児がん学会